

救急車の適正利用 にご協力を



救急件数増加に対する消防本部の対応



市消防本部では4台の救急車を配置し、年間約3,000件の救急事案に24時間体制で対応しています。また、救急出動の増加に伴い、遠方の消防署から救急車を出動させる場合がよくあります。そんな時は少しでも早く応急処置を開始するために、近くの消防隊が消防車でサイレンを鳴らし出動しています。市では、消防全体の力を結集して救命率の向上をめざしています。

救急出動3,000件のうちの一事案



しかしながら、最近の救急出動では軽いケガや緊急性の少ない安易な119番通報による出動が増加し、対応の遅れが懸念されています。

ケース①

救急車が通報のあった家に近づくと手招きをする人を発見。「家族の方が救急車の誘導に来てくれたのだ」と思いドアを開けた瞬間、小走りで救急車に乗ってくる男性。「えっ？家族の人ではなくて傷病者??」と驚きながらも事情を聞いてみると「足が痛い」と一言…。

ケース②

体が痛いということで出動すると女性が日焼けして痛いと訴える。緊急性もなく、家族の方もいるので自家用車で行けないかと聞くと、「救急車で行くと優先的に診てくれるんですよ」と一言…。

このような安易な出動要請により、「真に救急車を必要とする重症者」に対して、適切な救命処置などが遅れ、救える命が救えなくなってしまう可能性があります。緊急を要しない場合は、119番通報する前に自家用車やタクシーが利用できないかもう一度考えてみてください。

こんな時はすぐに119番通報を



- ・呼んでも返事がない、いつもと様子が違う
- ・呼吸が苦しい、顔色が真っ青、息をしていない
- ・5分以上続く胸痛
- ・急におきた激しい頭痛、腹痛
- ・急に話しにくくなった、突然手足が動かなくなった
- ・高いところから落ちてケガをした
- ・大出血している
- ・ケイレンがおきている
- ・車に跳ね飛ばされた

休日や夜間でどこの病院に行ったらいいのかわからない場合

- ・在宅医テレホンガイド(☎67◆2828)に電話をすると在宅医を音声案内してくれます。
- ・市のホームページ「災害・急病のとき」から当直医などが検索できます。

http://www.city.gamagori.aichi.jp/c01/cate01_01.html